

小青竜湯エキス(5200075)

【成分】

〔細〕 カネボウ：6 g 中(ハンゲ 6 g,マオウ・ケイヒ・ゴミシ・シャクヤク・サイシン・カンキョウ・カンゾウ各 3 g) エキス末 5.2 g

〔細〕 コタロー：7.5 g 中カネボウ処方エキス末 5 g

〔細〕 三和：9 g 中カネボウ処方エキス末 5.6 g

〔顆〕・〔錠〕 オースギ：7.5 g 又は 18 錠中カネボウ処方エキス末 4.1 g

〔顆〕 サカモト・テイコク：9 g 中カネボウ処方エキス末 4.22 g

〔顆〕 JPS：7.5 g 中(マオウ・ショウキョウ・ケイヒ・ゴミシ・シャクヤク・カンゾウ・サイシン各 3 g,ハンゲ 6 g) エキス末 5 g

〔顆〕 太虎堂：7.5 g 中 JPS 処方エキス末 4 g

〔顆〕 ツムラ：9 g 中カネボウ処方エキス末 5 g

〔顆〕 東亜薬品・ホノミ・本草：7.5 g 中カネボウ処方エキス末 4.5 g

〔錠〕 カネボウ：18 錠中カネボウ処方エキス末 3.9 g

【適応と用法】

コタロー：(1)次の疾患における水様のたん,水様鼻汁,鼻閉,くしゃみ,喘鳴,咳嗽,流涙：気管支喘息,鼻炎,アレルギー性鼻炎,アレルギー性結膜炎,感冒

(2)発熱症状後,尿量減少し,胸内苦悶,胃部に水分停滞感があり,喘鳴を伴う喀痰の多い咳嗽があるもの,あるいは鼻汁の多い鼻炎や,流涙の多い眼病のごとく,分泌液過多のもの：気管支炎

三和：(1)次の疾患における水様のたん,水様鼻汁,鼻閉,くしゃみ,喘鳴,咳嗽,流涙：気管支喘息,鼻炎,アレルギー性鼻炎,アレルギー性結膜炎,感冒

(2)せきと共に希薄の喀痰がでて,呼吸困難,喘鳴あるいは水鼻などを伴うものの次の諸症：気管支炎

その他：(1)次の疾患における水様のたん,水様鼻汁,鼻閉,くしゃみ,喘鳴,咳嗽,流涙：気管支喘息,鼻炎,アレルギー性鼻炎,アレルギー性結膜炎,感冒

(2)気管支炎

オースギ・コタロー・JPS・東亜薬品・ホノミ：1日 7.5 g 又は 18 錠,食前又は食間 2~3 回に分服(増減)

カネボウ：1日 6 g 又は 18 錠,食前又は食間 2~3 回に分服(増減)

サカモト・ツムラ：1日 9 g,食前又は食間 2~3 回に分服(増減)

三和：1日 9 g,食前又は食間 3 回に分服(増減)

太虎堂・本草：1日 7.5 g,食前又は食間 3 回に分服(増減)

テイコク：1日 3 回,1 回 3 g 食前(増減)

【注意事項】

(1)禁忌

(a)アルドステロン症の患者

(b)ミオパシーのある患者

(c)低カリウム血症のある患者 [(a)~(c)これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある]

(2)慎重投与

(a)病後の衰弱期,著しく体力の衰えている患者 [副作用が現れやすくなり,その症状が増強されるおそれがある]

(b)著しく胃腸の虚弱な患者 [食欲不振,胃部不快感,悪心,嘔吐,腹痛,下痢等が現れることがある]

(c)食欲不振,悪心,嘔吐のある患者 [これらの症状が悪化するおそれがある]

(d)発汗傾向の著しい患者 [発汗過多,全身脱力感等が現れることがある]

(e)狭心症,心筋梗塞等の循環器系の障害のある患者,又はその既往歴のある患者

(f)重症高血圧症の患者

(g)高度の腎障害のある患者

(h)排尿障害のある患者

(i)甲状腺機能亢進症の患者 [(e)~(i)これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある]

(3)重要な基本的注意

(a)使用に当たっては,患者の証(体質・症状)を考慮して投与する。なお,経過を十分に観察し,症状・所見の改善が認められない場合には,継続投与を避ける

(b)カンゾウが含まれているので,血清カリウム値や血圧値等に十分留意し,異常が認められた場合には中止する

(c)他の漢方製剤等を併用する場合は,含有生薬の重複に注意する

(9)遮光保存

【副作用】

(4)相互作用

併用注意

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

マオウ含有製剤 エフェドリン類含有製剤 モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤 甲状腺製剤 ・チロキシリン ・リオチロニン カテコールアミン製剤 ・エピネフリン ・イソプレナリン キサンチン系製剤 ・テオフィリン ・ジブプロフィリン 不眠,発汗過多,頻脈,動悸,全身脱力感,精神興奮等が現れやすくなるので,減量するなど慎重に投与する 交感神経

刺激作用が増強されることが考えられる

カンゾウ含有製剤 グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 ループ系利尿剤 ・フロセミド ・エタクリン酸チアジド系利尿剤 ・エチアジド 偽アルドステロン症が現れやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパシーが現れやすくなる(重大な副作用の項参照) グリチルリチン酸及び利尿剤は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる

(5)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である

(a)重大な副作用

(f)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症が現れることがあるので、観察(血清カリウム値の測定など)を十分に行い、異常が認められた場合には中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行う

(i)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーが現れることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢けいれん・麻痺等の異常が認められた場合には中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行う

(b)その他の副作用

(f)過敏症：発疹、発赤、そう痒等が現れることがあるので、このような症状が現れた場合には中止する

(i)自律神経系：不眠、発汗過多、頻脈、動悸、全身脱力感、精神興奮等が現れることがある

(g)消化器：食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等が現れることがある

(c)泌尿器：排尿障害等が現れることがある

(6)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

(7)妊婦、産婦、授乳婦等への投与：妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ投与する

(8)小児等への投与：小児等に対する安全性は確立していない [使用経験が少ない]

【長期】

【備考】